

平成 30 年度千代田区図書館評議会 評議会委員による平成 31 年度に向けた提言

千代田区立図書館が、利用者にとって満足度の高いサービスを提供している状況にあることは承知している。ただし、社会状況の変化に柔軟に対応した、より多くの人々が気軽に、そして安心して利用する図書館であり続けるためには、運営面・サービス面での検討が不可欠であることから、来年度に向けて以下の事項を提言する。

1. 5館一括の運営体制について

業務実施基本方針では“5館一括の運営を目指す”としている。しかしながら、千代田図書館と日比谷図書文化館では、同じ業務を行っているにもかかわらず部署名が異なっている。また、「業務計画書」「活動報告」の目次構成や、「資料収集計画」の項目、配列順序、表現等が統一されていない。次年度こそ、5館一括の運営であることを明確に提示していただきたい。

2. 資料収集・蔵書構築について

- (1)「平成 30 年度 千代田区立資料収集計画」には“千代田区立図書館 5 館の分担収集”を行っている」と明記されている。具体的には各館でどのように分担しているのかを、明確に提示していただきたい。さらに、蔵書冊数の少ない昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館では、分担収集のもとで、どのような蔵書構成を意図しているかを明らかにしていただきたい。
- (2)「平成 30 年度 千代田区立資料収集計画」について、図書館の機能や利用者の状況を考慮した見直しも必要であるという意見や、日常的な選書業務の記録を、可能な範囲で利用者に開示できる状態にする必要があるという意見が出されている。これらについて検討していただきたい。
- (3) 児童書及びヤングアダルト（中高生）を対象とした資料が、他の区立図書館と比較して貧弱であり、充実を図る必要があるという意見や、児童書の収集計画に「紙芝居」を位置づけ、充実を図ってほしいという要望が出されている。現状に対する見解と、今後の取組みについて明示していただきたい。なお、ヤングアダルトを対象とした資料については、書架の位置を目立つようにした方が良く、テーマ展示をしてはどうか、という提案も出されている。
- (4) 千代田図書館では、「出版」に関する資料収集を積極的に行っているが、千代田区内には「出版」以外にも、様々な業界の歴史ある企業の本社が所在している。地域資料・情報として、そうした企業に関する資料やデータを積極的に収集していくことも必要であ

ると考える。検討していただきたい。

- (5) 蔵書点検の実施により、不明率の実態が把握された意義は大きいと考える。実態を踏まえた具体的な対策について検討し、その結果を明らかにしていただきたい。防犯カメラの増設、IC タグシステムの導入などの設備面の他に、例えばゲートで検知音(アラーム)が鳴った際の対応など、日常的な職員の取組みも検討事項に含まれると考える。

3. 図書館サービスについて

- (1) 高齢者サービスに積極的に取り組んでいただきたい。千代田図書館は高齢者にとって敷居が高く利用しにくいという声を聞いた委員もいる。高齢者向けのイベントを実施する際には、併せて、図書館の利用に結びつくような取り組みが必要であるという意見が出されている。区内の高齢者施設と連携を図る以外に、先進事例なども踏まえた新しいサービスを展開していただきたい。
- (2) 新刊図書の配架時期が、他の区立図書館（例えば港区や文京区など）と比較して2～3週間遅いようであるという意見が出されている。選書に時間が必要であることは理解するが、特に新刊図書については、利用者への迅速な提供も不可欠であると考え。検討していただきたい。
- (3) 「5つの機能コンセプト」の一つとして「区民の書齋」を掲げている。区民の利便性を高めるために、以下の事項を検討していただきたい。
- ① 区民同士で会話ができるスペースの確保
 - ② 図書館利用の初心者を対象とした具体的な取り組み（例えば、来館者への案内や支援態勢の整備、気軽に質問できる雰囲気づくり、OPACの便利な機能を伝達する機会の設定、パスファインダーの作成・配布など）
 - ③ 日比谷図書文化館が所蔵する、永久保存しない雑誌について、区内の他の図書館で閲覧できるようにすること
 - ④ OPACを使いやすいものにする改善提案を継続して行っていくこと
- (4) オンラインデータベースの利用時間について、千代田図書館は「1日1回30分（30分延長可能）」であり、日比谷図書文化館は「1データベースにつき1日2回まで（1回につき1時間）」とされている。利用者の利便性の向上という観点から、両館の利用時間を同一にすることができないか、検討していただきたい。
- (5) パスファインダーに関して、千代田図書館と日比谷図書文化館で別々に作成しているが、両館で連携を図ること、及び、千代田図書館が作成している「子ども・中高生向け」の

種類を増やすことについて検討していただきたい。また、四番町図書館や昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館で、印刷版を配布していただきたい。

- (6) 千代田図書館に、東京都立図書館の「東京都立図書館統合検索」や、国立国会図書館の「国立国会図書館オンライン」など、他の図書館の蔵書検索ができる専用端末を設置していただきたい。
- (7) 日比谷図書文化館における区民の利用が少ないことは、各種の調査により明らかであり、区民の利用率を高める取り組みをしていただきたい。
- (8) 図書館の Web サイトから、国立国会図書館の「デジタル化資料閲覧サービス」「歴史的音源配信」やナクソス・ジャパン株式会社の「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」などの外部のサイトにアクセスできるが、トップページからは分かりにくい。また、「千代田区立図書館デジタルアーカイブ」にトップページからアクセスすることができれば、貴重資料の広報になるとも考えられる。これらを含めて、様々な情報源への入り口としての機能を果たすという観点から、トップページの改善について検討していただきたい。
- (9) 区内の各種施設との連携について、以下のような事項が提案されている。それぞれについて、検討していただきたい。
 - ① 数多くの大使館が所在することは、千代田区の特徴の一つであることから、各国大使館と連携した取り組み
 - ② ちよだパークサイドプラザ区民図書室、男女共同参画センターMIW（ミュウ）についての情報を、図書館の Web サイトから発信するとともに、選書や行事等で連携を図ること
 - ③ 美術館・博物館との連携による質の高い事業の実施
- (10) ヒト型ロボット（ソフトバンクの Pepper など）の導入について検討していただきたい。すでに導入している図書館もあり、話題性、子どもたちへの教育的意義、高齢者サービスへの活用など様々な可能性が考えられるという意見が出されている。

4. 職員について

研修については、「司書に求められる専門性」という観点から計画する必要がある。また、職員の身分やキャリアパスなどの制度的な体制が十分に整備されていることが求められる。

以上